

翔

2010
December
No.207
百万石蝶談会



2009年アサギマダラ日記

松井正人

■ 5月16日 今年の初マーキング

羽咋市から志賀町にかけて調査し、志賀町大島（おしま）で初マーキング。今年の初マーキングは、きれいなめだった。それにしても、冬期間の季節風が激しかったのか、植生が貧弱なところは、砂が飛ばされたり大きくえぐられたりと、スナビキソウが生えていた場所の砂が大きく動きスナビキソウが衰退している。



冬期間の波浪で削り取られた砂浜（志賀町甘田）

■ 5月23日 マーキング説明会と再捕獲

今日は午後から珠洲市の公民館で、「マーキング説明会」が有るので、午前中はマーキングすることにして、5時に金沢を出発。7時からマーキングを始めたが、気温は16度と低いため観察できない。18度になって、ようやく観察できるようになり、気温が20度まで上がってくると乱舞が始まった。11時～13時にかけて狼煙と寺家で43頭にマーキングし、後ろ髪を引かれる思いで、アサギマダラの説明会場へ向かった。



珠洲市狼煙のマーキングポイント

この日は、とんでもない再捕獲もあった。宝達山の麓の北川尻海岸で、橘英子さんが長崎県の五島列島で放蝶されたアサギを再捕獲したのである。このアサギを放蝶したのは、五島列島の野下広人さんで、野下さんは前年（2008年）の秋に、橘英子さんが宝達山で放蝶したアサギを五島列島で再捕獲されており、不思議な縁を感じてしまった。



珠洲市寺家のマーキングポイント



上五島町から飛来したアサギマダラ

■ 6月6日 海岸マーキング大作戦

珠洲、宝達、金沢の3チームが志賀町から珠洲市にかけての海岸一斉マーキングを実施。ところがどこでもアサギの飛来が少なく、金沢チーム15頭、宝達チーム8頭、珠洲チーム22頭のマーキング成果に終わった。



珠洲市高屋のマーキングポイント

■ 7月26日 医王山でマーキング

下界から医王山は見えなかったので雨とばかり思っていたが、標高400~500mに雲がかかり、それより上は薄曇りだった。夕霧峠にアサギは多く、9時20分から2分間隔のマーキングができたが、11時40分頃から雨が降り出し、樹の下で雨宿りしていたが土砂降りになり調査は中止。帰り際、雨の中を飛ぶアサギを何頭も観察する。



医王山のアサギポイントはヨツバヒヨドリ

■ 8月3~4日 白山登山

快晴の白山に、観光新道から登り、観光新道から降りてきた。尾根道の観光新道は、その名のとおり360度の景観がすばらしく、時折アサギが頭上を悠然と通り抜けて行く。室堂平では、ベンチに腰掛けている大勢の登山者1人1人に、まるで挨拶でもしているかのように、何頭かのアサギがフワリフワリと飛び回っていた。風も穏やかで、3日には白山頂上の3頭を含め飛翔するアサギを18頭観察し、4日には、ハクサンフウロで吸蜜する1♀を含め9頭を観察した。

この2日間の日焼けはすさまじく、無防備だった手の甲を始め、顔面と首筋が真っ赤になり、ヒリヒリ痛んだ。



「馬のたてがみ」から殿ヶ池小屋、六万山を望む

■ 9月16日 宝達小学校マーキング会

これまでの記録から、13～18日に宝達山でたくさんのアサギが観察されているので、マーキング会を16日に設定。ところが、晴の予報にもかかわらず午前中はくもりで気温が16度と低い。子供達の前に現れたアサギは4頭で、マーキングできたのは1頭のみ。恨めしい天気は、子供達が帰る頃から回復し始め、しばらくしてアサギも飛び出した。



マーキングに喜ぶ子供達

■ 9月21日 宝達山にアサギとネット

今年は天候不順のためかアサギの飛来が極端に少なく、まとまったマーキングができていない。今日は気温が上昇し、宝達山にアサギが多かったが、待ちかねたようにネットも多かった。宝達チームの常連さんに宝達小学校の2家族、更には珠洲チームも駆けつけた。



マーキングの合間の情報交換

■ 9月23日 宝達山に緊急集合

午前中の宝達山は雨だったが午後から回復し、すぐさまマーキングに向かった堀夫妻が眼にしたのは、乱れ飛ぶアサギの姿。これは大変と、メンバーに緊急集合がかけられ、16時30分までに74頭にマーキングされた。雨上がりにもかかわらず、頂上の気温は21度あり、湿度が高かったのが良かったのかもしれない。これまでに観察されたアサギは古い個体が多かったが、今日は新鮮な個体が多かった。地元産アサギの移動がこれから始まり、宝達山に多数飛来してくると、楽しい予想をしたが、この74頭が今年一番の成果となった。



大量マーキングに思わずこぼれる笑み

■10月4日 マーキング納め

シーズンは終わったと思っていたが、宝達山で再捕獲が1頭あり、最後のマーキングに出かける。宝達山でアサギが観察されるのは例年9月までで、10月に入ってから観察は珍しい。9月下旬からは、白タオルに反応しないアサギが増え、今日のアサギもほとんど反応してくれず、親しい友人が離れて行ったようで寂しい気持ちになる。



秋田県八幡平から飛来したアサギマダラ

■10月31日 枯葉のブナ林でマーキング

「山の龍宮城」の閉城式とあって、マーキングメンバーが宝達山に集まった。ついでに頂上まで行ったところ、なんと枯葉色のブナ林にアサギが飛んでいる。あわててネットを組み立てて採集すると、更に1頭が飛来し、2みにマーキング。気温が高かったので、平地を移動していたアサギが、山に登ってきたものと思われる。



枯葉のブナ林で3頭目を待つメンバー

■12月22日 クリスマス前のプレゼント

「ほうだつ」マークが与那国島で見つかったとの情報が入った。与那国島は、日本最西端の島で宝達山からの距離は直線で1900kmもあり、100km先には台湾がある。超ラッキーな放蝶者は橘 英子さんで、クリスマス前に大きなプレゼントが届いた。今年の宝達山からの放蝶数は472頭と少なかったが、再捕獲は8頭目となり59頭に1頭が再捕獲されたことになる。300頭に1頭の時代もあったが、全国での盛り上がり伝わってくる。



人面岩付近で見付かった「Eiko 10」

トゲナナフシを飼育しよう

松井 正人

冬期間にも動き回る虫は、なかなかいないが、トゲナナフシは冬期間も常温で動き回り、大きくて魅力的な姿、しかも何でも食べ飼育は簡単である。寿命も長く、今のところ7月11日までの記録があり、2度目の夏を越すことも考えられる。野外では、12月末まで観察できるので、飼育にチャレンジしてみてもいいだろうか。

■飼育容器



密閉式の飼育容器(左)と開放式の飼育容器(右)

トゲナナフシの飼育は開放式の飼育容器で行うが、低温期は食餌植物の管理が簡単な密閉式でも可能で、密閉式でトゲナナフシの体にカビが生えるようであれば、開放式で行う。

①開放式の飼育容器

プラスチックの飼育ケース(30×20×20cm)に、水に差した食餌植物と水飲み場を入れ、トゲナナフシ2個体を入れる。

②密閉式の飼育容器

ポリプロピレンの密閉容器(4.5リットル)に、食餌植物の枝や葉と水飲み場、加湿を防ぐための乾いたティッシュペーパー1枚を入れ、トゲナナフシ2個体を入れる。

■食餌植物

食性は広く、何でも食べると思われ、手に入るものは何でも与えてみると良い。草本より木本の保ちの方が良いようで、これまでの飼育では、木本を多く与えた。

春から秋にかけては、アベマキ、コナラ、クリ、カシワ、タニウツギ、サクラ、キイチゴ、ガマズミ、ギシギシなどを食べ、キイチゴ、ガマズミは好んで食べた。

落葉期は、ヤツデ、クロガネモチ、ヤマモモ、ソヨゴ、アオキ、シシガシラなどを食べ、ヤツデは好んで食べた。

■水差し

開放式の飼育容器では、食餌植物を水に差した状態で与えるが、トゲナナフシは水差しの水を飲もうとして中に落ちて溺れることが有るので、落ち込まない工夫が必要である。

■水飲み場

1年を通じて水を良く飲む。直接水面に口を付けても飲むが、水の中に落ちる危険性があるので、ティッシュを団子状にして水を染み込ませた水飲み場で飲ませるのが安全。

掃除と水の補給は1週間に1度程度で良いが、乾燥期には乾燥具合を毎日チェックし、いつでも水が飲める状態を保つのが大切である。

■日光浴

野外では、秋に日光浴をしていると思われる姿をよく観察するので、秋から春にかけて、天気の良い日には半日ほど日光浴させる。日光浴をさせる容器には、直射日光が当たる部分と当たらない部分を作り、あとはトゲナナフシに判断させる。

■餌替えと掃除

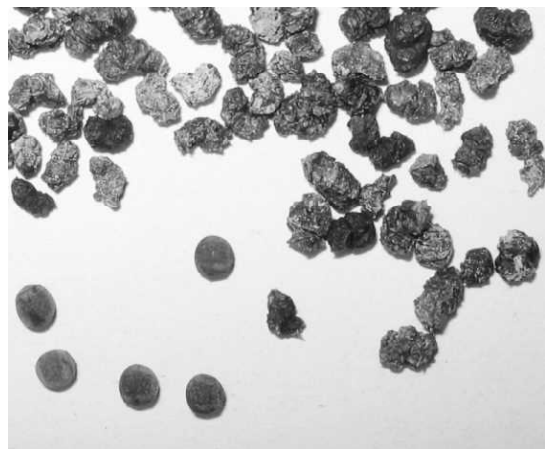
餌替えと容器の掃除は、1週間に1度程度行う。容器の底には、乾いた糞と卵が一緒になって散らばっているのが、ごつごつした砂粒のような糞に比べ丸い卵は良く転がるので、糞と卵を分けるのは簡単である。



顔を横にしてシシガシラを食べるトゲナナフシ



水飲み場で水を飲むトゲナナフシ



丸いトゲナナフシの卵(左下5個)と砂粒のような糞

■金沢市卯辰山の観察地

卯辰山にはトゲナナフシが多く、街灯の下の湿気った水路などを捜すと簡単に見つかる。

①豊国神社参道(階段横の水路の中にある)



②豊国神社参道(階段の角にいる)



③献体墓地入口(街灯下の水路の中にある)



④相撲場付近(街灯下の水路の中にある)



⑤宇多須神社奥宮(街灯下の水路の中にある)



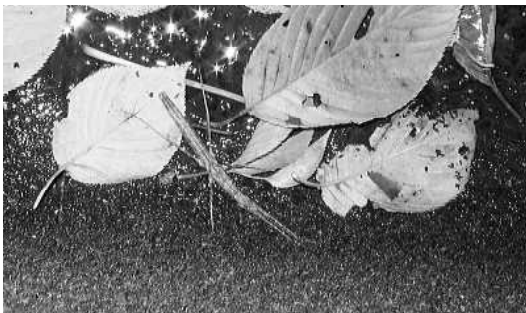
⑥水路の壁面にいるトゲナナフシ



⑦階段の角にいるトゲナナフシ



⑧水路の底にいるトゲナナフシ



金沢市の市街地周辺で観察されたホシミスジについて

浅野直樹

金沢市金川町の北陸大学薬学部薬用植物園で、昨年に引き続きホシミスジを観察採集したほか、市街地周辺でホシミスジを観察しているので報告する。

| | | | |
|------------|--------------|--------|------|
| 2010年8月22日 | 石川県金沢市金川町 | 3♂2♀採集 | 浅野直樹 |
| 2009年7月上旬 | 石川県金沢市永安町 | 1頭目撃 | 浅野直樹 |
| 2010年9月上旬 | 石川県金沢市小立野2丁目 | 1頭目撃 | 浅野直樹 |
| 2010年9月上旬 | 石川県金沢市土清水3丁目 | 1頭目撃 | 勝海雅夫 |

金沢市には、1957年に本種の採集記録が日尾（犀川ダム周辺）にあり、山奥に古くからホシミスジが生息していたことは間違い無い。しかし、今回観察された場所は、市街地周辺であり既産地から遠く離れている。

本種の食樹は、シモツケ、コデマリ、ユキヤナギなどで、街路樹や植え込みに使われることが良くあり、幼虫や卵が食樹と共に他の地域から移入してきたことは、十分に考えられる。

最後に、目撃情報の報告を筆者に委ねられた勝海雅夫氏に、お礼申し上げる。

《参考文献》

浅野直樹（2009）石川県金沢市金川でホシミスジを採集．翔(199):2.

今井宏三・勝田 博（1957）金沢市近郊の蝶を追加す．とっくりばち(5):9.

《あさの なおき 〒920-0942 金沢市小立野2-27-7》

宝達山でマーキング

五 萌 み どり

今日は、宝達山のマーキングに参加した。頂上付近へ行くと、軽快な音楽が鳴っていたのには驚いたが、チリンチリンと鈴の音も聞こえてきて納得した。クマ避けの音楽だった。

今年は、アサギマダラの飛来が少ないと聞いていたが、タオルを回しているといくつも飛んでくる。ところがなかなか捕まらない。アサギマダラはタオルに吸い寄せられてくるのに、回していたタオルをネットに持ち替えるほんの一瞬の間に、回れ右して私から離れて行く。上手な人は、片手にネット、片手にタオルを持って、タオルを回しながらネットを振っている。試してみたが、左手ではタオルは回らないし、ましてネットとなると思うように振れず、アサギマダラは絶対に捕まらない。あたふたと、タオルをネットに持ち替えながら10匹にマークした。

宝達志水町の宝達山山頂付近は、9月にアサギマダラが集まる山として有名で、頂上まで舗装道路が整備され、気軽にマーキングできる。私も利用したが、頂上付近にある町営の休憩所「山の龍宮城」では、ネットやペンなどが借りられ、マーキングした内容を届けおくと、再発見されたときに「たまたまこ」が届くらしい。

私がマークしたアサギマダラが珊瑚礁の島で見付かったらと思うと、毎日が楽しくて仕方がない。皆さんもマーキングに訪れてはいかがでしょうか。

会員の動き・しゃばの動き

■加賀市で観察された4頭のナガサキ

9月に入って、加賀市の狭い範囲で1♂3♀のナガサキアゲハが観察されている。ナガサキの北限は福井県敦賀市辺りと思われ、県内では1951年と2001年にそれぞれ1♂が観察されている程度。一挙に4頭の観察となると、どこかで発生している可能性がある。

■動きが無い松井氏

10月に入って松井氏の動きが止まった。アサギのマーキングシーズン中は動いていたのに、最近の動きがない。加賀市のナガサキ、輪島のシルビアと、南に北においしい話があるのに、動きがない。何かで足止めされているのだろうか。

■ネットは常に携えて

快晴に誘われて採卵に向かったA氏とH氏の前の現れたのは、ヒラヒラと舞う見たこともない蝶だった。ノコギリとはさみは有るものの、またまたネットを持たないA氏は悔しがり、常にネットを携えたH氏はニンマリほほえんだ。見たこともない蝶については、H氏から報告が有るだろう。

■まさかのヒナカマキリ

県内では、広くて自然が豊かな社叢林の林床に細々と生息していると思われるヒナカマキリが、舳倉島で見付かっていた。舳倉島は、東西1600m、南北600m、最高海拔15mの小さな島に300人が暮らしている。ヒナカマキリの生息環境が残っていたとはビックリもので、この環境をいつまでも残していきたい。

■動き出した北上前線

福井県でナガサキアゲハが最初に観察されたのは、1993年の三方町。1999年には敦賀市で観察されているが、その後の北上は無く、長らく足踏み状態が続いていた。それが、2009年には越前市で幼虫が観察され、2010年には福井市で1♀、石川県加賀市で1♂3♀と、急に北上前線が動き出した。

■大脇氏佐渡へ

アサギの調査員を長年捜していた佐渡に、大脇氏が10月から転勤になった。氏には悪いが、適任者の渡島に喜んでいて。6月上旬に、奥能登でマーキングされたアサギの次の飛来地は、おそらく佐渡。北部外海府海岸には「すず」マークのアサギが群れていることが予想され、来年からのマーキングが楽しみになってきた。

■小桜平小屋が立て替え

白山小桜平にある避難小屋は、蝶談会のベースポイントとして、昭和の終わり頃は盛んに利用されていたが、老朽化のために新しい小屋が建てられ古い小屋は取り壊された。陽がかけるとパキパキと音をたてるトタン屋根、煤けたデポカン、手彫りの人形などなど、古き良き時代の思い出が詰まった場所が、またひとつなくなった。

■トゲナナフシの季節

寒くなってきた。暖地系のトゲナナは暖かな南斜面に集まり、のどが渇くと水を飲み、斜面の下に降りてくる。光に集まる習性もあり、こんな場所を探すと手足をピンと伸ばした棒のようなトゲナナが見付かる。

■風向きが悪いの？

初夏の寒さ、長引いた酷暑、それとも風向きの影響か、今年の宝達山はアサギが少なく、例年では軽く1000頭を越すマーキング数が400頭にも届いていない。追い打ちをかけるがごとく、近年の再捕獲率は1.5%程度と高いのに、11月になっても「ほうだつ」マーク捕獲の知らせが1頭も無い。

■赤くないアカトンボ

秋に田んぼの上を群飛しているのは、今やアキアカネでは無く、ウスバキトンボだどご存じだろうか。アキアカネは10年ほど前からほとんど観察されず、増えてきたウスバキトンボに入れ替わっているらしい。羽をきらめかせて飛ぶ姿はアキアカネにそっくりだが、赤くなることはないらしい。

■採卵シーズン到来

剪定ばさみのA氏と、ネットもしっかり携えたH氏は、小松市周辺でオオミドリを採卵し、気を良くしたA氏は、その後も各地で採卵している。

■ 例会 の 記 録 ■

10月7日（木）浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、2008年から行われていた舳倉島・七ツ島の昆虫調査について、富沢氏が紹介。暴風雨とともに大量飛来したウスバキトンボとハイイロゲンゴ、舳倉島でまさかのヒナカマキリ、ヘグラシモフリコメツキとスズキシモフリコメツキの違い、などなどが掲載された一般向けの報告書（舳倉島・七ツ島からの手紙）は、発行済（2010年8月10日）で、学術報告書は年内発行予定。

その他の話題は、若狭にはナガサキとモンキが同じくらい生息している、シルビアは何化するの、イカリモンが危機的状況、シンジュキノカワガが発生、チッチゼミの抜殻がいっぱい、子供の世話よりクワガタの世話、などなど。

参加は、山岸、浅地、富沢、竹谷、福富、松井、浅野、大宮、細沼、長田の10人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

| | |
|-------------------------------|---|
| 松井正人：2009年アサギマダラ日記 | 1 |
| 松井正人：トゲナナフシを飼育しよう | 5 |
| 浅野直樹：金沢市の市街地周辺で観察されたホシミスジについて | 8 |
| 五萌みどり：宝達山でマーキング | 8 |
| 編集部：会員の動き・しゃばの動き | 9 |

翔 207号

Tobu 2010年12月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

